科目ナンバリング	U-LAS30 20025 LJ13						
授業科目名 <英訳>	情報企業論 Information and Enterprise			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 教授　　松井　啓之		
群	情報学科目群	分野(分類)	(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画 する態度を育てる。また、情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響について、思考を 深める。
特に将来グローバルな仕事への従事希望者、ハイテク産業の行政、投資・評価、コンサルティングの希望者、起業志向者、大企業やスタートアップの キーマネジメント志向者、経営管理などに興味をもつ学生にとっては、ITインフラ、サービス関連の全体概要と最新動向に触れる機会を提供する。受講者が目 的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。当該領域で活躍中の第一線専門家による講義も予定している。

[到達目標]

情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画 する能力の獲得を目指す。また、価値の創出（クリエイティブ・デザイン）と
価値の良さがわかる（サービス・リテラシー）人材の教育を行う上での基礎知識 を習得する。

[授業計画と内容]

＜講義スケジュール例＞（過年度実績）

前川・松井・藤田・平本　イントロダクション

平本　エスノグラフィ(参与観察)
平本　エスノグラフィ(分析)
平本　サービスデザイン①
平本　サービスデザイン②
松井　企業活動と情報システム/社会のデジタル化
松井　企業活動と情報システム/デジタル化を支える基礎技術
松井　企業活動と情報システム/デジタル化を支える応用技術
松井　企業活動と情報システム/ビジネスアナリティクスとAI
藤田　産業のサービス化
藤田　デジタルトランスフォーメーション（DX)
前川　マーケティング（理論とケース）
前川　ナレッジ・マネジメント（理論とケース）
ゲスト　事例紹介「脳科学をビジネスに」

前川・松井・藤田・平本　フィードバック

藤田哲雄先生は、京都大学経営管理大学院所属、
平本　毅先生は、京都府立大学文学部和食文化学科所属

情報企業論(2)へ続く↓↓↓

情報企業論(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

情報活用社会に対する社会背景、現状分析、課題の認識、解決アプローチ等の習得を目的とし、その習得程度を評価する。評価の方法としては、授業への積極的参加　(20%) 、レポート課題(4回、合計で80%) とする。

[教科書]

教科書は指定しない。

授業で用いるものは、適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
小林潔司、原　良憲、山内　裕『日本型クリエイティブ・サービスの時代　「おもてなし」への科学的接近』（日本評論社）ISBN:978-4-535-55799-4
下 記記載の参考書は、授業の一部の概要を知るための参考資料である。他の参考書に関しては、授業中に適宜指示を行う。 [1] David A. Kaplan, The Silicon Boys: And Their Valley of Dreams （邦訳：デイビッド・A・カプラン, シリコンバレー・スピリッツ, ソフトバンク パブリッシング）, 2000 [2] ジョー・ティッド他, イノベーションの経営学, ＮＴＴ出版, 2004 Lewis Branscomb and Philip Auerswald, Between Invention and Innovation, NIST GCR 02-841, 2002 [3] Geoffrey A. Moore, Crossing the Chasm （邦訳： ジェフリー・ムーア, キャズム, 翔泳社, 2002) [4] Clayton Christensen, The Innovator’s Dilemma （邦訳： クレイトン・クリステンセン, 翔泳社, 2000) [5] Clayton Christensen, Seeing What’s Next (邦訳： クレイトン・クリステンセン, ランダムハウス講談社, 2005) [6] ダンカン・ワッツ, スモールワールド・ネットワーク, 阪急コミュニケーションズ, 2004 [7] アルバート・バラバシ, 新ネットワーク思考, 日本放送出版協会, 2002 公文俊平, 情報社会学序説, ＮＴＴ出版, 2004 [8]　クレイトン・クリステンセン, 明日は誰のものか, ランダムハウス講談社, 2005 クリス・アンダーソン, ロングテール, 早川書房, 2006 [9] ヘンリー・チェスブロウ, 「Ｏｐｅｎ Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ」, 産業能率大学出版部, ２００４ [10] スティーブ・Ｙ・西浦, 「リテンションストラテジー」, かんき出版, ２００１ [11] Timmons, et al.,“ New Venture Creation - Entrepreneurship for the 21st Century - ”, McGraw-Hill Irwin, 2006 [12] John L. Nesheim,“ High Tech Start Up ”, The Free Press, 2000

[授業外学修（予習・復習）等]

前回受講のハンドアウトの復習。参考書籍の事前学習。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者が目的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。
開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールによるアポイントを経ることとする